

香取市地域公共交通協議会 (第40回協議会資料)

目次

議題 1	循環路線の再編について 1
報告 1	令和2年度公共交通事業者支援事業について 13

議題 1 循環路線の再編について

令和元年度市民事業仕分けにおいて、公共交通に関連する3事業が仕分け対象となり、結果として、「バス路線運行事業」、「循環バス運行事業」、「乗合タクシー運行事業」ともに結果として「要改善」の評価であった。

市民判定人からの主な評価内容は、運賃の見直し、適正な受益者負担、旧市町の枠組みを廃した既存路線の効率化による収支の健全化が求められており、速やかに取り組むべき課題となっている。

令和2年3月策定の香取市地域公共交通網形成計画においても、計画目標の達成状況の評価指標として、受益者負担率の向上、財政支出の削減による持続可能な公共交通の構築が掲げられている。

については、運賃格差の是正ならびに受益者負担の平準化を図ることを目的に循環路線の運賃改定を実施する。

旭中央病院線の廃止に伴う、栗源～山田～小見川地区を結ぶ新規路線の導入及び栗源循環ワゴンの刷新を軸に、既存路線の機能強化及び機能分担による効率的な運行体系への転換を図ることを目的に循環路線の再編を実施する。

以上について、次のとおり協議する。

(1) 再編予定日 令和3年10月1日(金)

(2) 運賃改定概要

山田循環バスは、旧山田町の大人運賃及び独自の割引制度(シルバー割)が引き継がれている。大人運賃は、佐原・小見川循環バスに比べ安価に設定されており、地域間で運賃格差が発生している。受益者負担の平準化の観点から、佐原・小見川循環バスと大人運賃及び割引制度を統一した統一運賃へ改定する。

また、実証運行中である佐原循環ワゴンについても、統一運賃へ改定する。なお、割引制度の導入は、本格運行への移行に合わせ判断するものとする。

今回の運賃改定から、適正な受益者負担による持続可能な公共交通の構築を目的に、無料であった障害者手帳所持者(大人)を有料とする。

設定運賃は、市内を運行する路線バスの運賃体系(障害者手帳所持者、普通運賃の5割引)を参考としつつ、これまで無料であったこと、障害者福祉の観点から100円とする。ただし、障害者手帳所持者(中高生)については、無料とする。

循環バス1日フリー乗車券について、周遊ルートに限り安価に設定している割引内容を見直し、大人600円、中高生200円に統一する。

●運賃表

循環バス（佐原・小見川・山田）			
改定後		現行	
運賃	大人	<u>300 円</u>	運賃 大人 300 円
	中高生	100 円	大人（山田） <u>200 円</u>
	小学生	無料	中高生 100 円
	未就学児	無料	小学生 無料
	障害者手帳所持者（大人）	<u>100 円</u>	未就学児 無料
	障害者手帳所持者（中高生）	無料	障害者手帳所持者 <u>無料</u>
割引	回数券 12 枚綴り	1,000 円	割引 回数券 12 枚綴り 1,000 円
	シルバー割引（山田）	廃止	シルバー割引（山田） <u>100 円</u>
	<u>1 日フリー乗車券大人</u>	<u>600 円</u>	1 日フリー乗車券大人 600 円
	<u>1 日フリー乗車券中高生</u>	<u>200 円</u>	1 日フリー乗車券中高生 200 円
			<u>1 日フリー乗車券大人（周遊）</u> <u>500 円</u>
			<u>1 日フリー乗車券中高生（周遊）</u> <u>200 円</u>

循環ワゴン（佐原）			
改定後		現行	
運賃	福田ルート		運賃 福田ルート
	大人	<u>300 円</u>	大人 <u>500 円</u>
	中高生	100 円	中高生 100 円
	小学生	無料	小学生 無料
	未就学児	無料	未就学児 無料
	障害者手帳所持者（大人）	<u>100 円</u>	障害者手帳所持者 <u>無料</u>
	障害者手帳所持者（中高生）	無料	
	周遊ルート		周遊ルート
	大人	300 円	大人 300 円
	中高生	100 円	中高生 100 円
	小学生	無料	小学生 無料
	未就学児	無料	未就学児 無料
	障害者手帳所持者（大人）	<u>100 円</u>	障害者手帳所持者 <u>無料</u>
	障害者手帳所持者（中高生）	無料	

(3) 運賃改定の効果

各循環バスは、新型コロナウイルス感染症の影響が少ない令和元年度の運賃収入及び乗降実績から、佐原循環ワゴンは、令和2年度運行開始のため、令和2年度実績により、以下のとおり試算した。

●山田循環バス

運賃改定により、521,900円の増収が見込まれる。

【令和元年度実績値（推計）】

総利用者数 4,805人

運賃収入 487,200円

大人 961人 (20%)、中高生 1,249人 (26%)

シルバー割 1,682人 (35%)、障害者 913人 (19%)

【再編後（推計）】

総利用者数 4,805人

運賃収入 1,009,100円 (521,900円増 (①))

大人 961人 × 300円 = 288,300円

中高生 1,249人 × 100円 = 124,900円

シルバー割 1,682人 × 300円 = 504,600円

障害者 913人 × 100円 = 91,300円

●佐原循環ワゴン

運賃改定により、38,700円の減収が見込まれる。

【令和2年度実績値（実数）】

総利用者数 945人

運賃収入 267,100円

大人 672人 (71%)、中高生 107人 (11%)、小学生 5人 (1%)

障害者 161人 (17%)

【再編後（推計）】

総利用者数 945人

運賃収入 228,400円 (38,700円減 (②))

大人(福田) 274人 × 300円 = 82,200円

大人(周遊) 398人 × 300円 = 119,400円

中高生(福田) 104人 × 100円 = 10,400円

中高生(周遊) 3人 × 100円 = 300円

障害者(福田) 160人 × 100円 = 16,000円

障害者(周遊)	1人	×	<u>100円</u>	=	100円
小学生以下(福田)	0人	×	0円	=	0円
小学生以下(周遊)	5人	×	0円	=	0円

●障害者手帳所持者の有料化

運賃改定により、922,100円の増収が見込まれる。

【令和元年度実績(推計)】(総利用者数における障害者利用率 19%)

佐原循環バス 総利用者数 31,417人 (うち障害者数 5,969人)

小見川循環バス 総利用者数 11,463人 (うち障害者数 2,178人)

山田循環バス 総利用者数 4,805人 (うち障害者数 913人)

【令和2年度実績(実数)】

佐原循環ワゴン 総利用者数 945人 (うち障害者数 161人)

合計 障害者数 9,221人 × 100円 = 922,100円

(山田循環バス、佐原循環ワゴン除く 814,700円 (③))

●試算結果

運賃改定により、既存循環路線において、1,297,900円の増収が見込まれる。

なお、試算は、既存循環路線の機能強化・機能分担による利用者の増減及び割引制度(回数券、フリー乗車券)等は考慮していない見込み値である。

(①)521,900円 - (②)38,700円 + (③)814,700円 = 1,297,900円

●既存循環路線における収支率

運賃改定により、2.7%の収支率向上が見込まれる。

【再編前】

委託料 4,809万円 - 運賃収入 878万円 = 運行経費 3,931万円
(収支率 18.2%)

【再編後】

委託料 4,809万円 - 運賃収入 1,008万円 = 運行経費 3,801万円
(収支率 20.9%)

I 栗源～山田～小見川線（新設・実証運行）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 4便/日（4往復）
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野リエッセ（37人乗り）
- (5) 運賃 大人300円、中高生100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12枚綴り1,000円）
乗車券（1日フリー乗車券大人600円、中高生200円）
- (6) ルート 別添【資料1-2】参照
- (7) 時刻表 別添【資料1-3】参照

(8) 路線説明

旭中央病院線の廃止に伴い、その廃止代替路線として新設する路線である。

ルート及び停留所は、概ね旭中央病院線を踏襲、道の駅くりもとと交通結節点である小見川駅と繋げ、橘ふれあい公園、田部仲新田及び中峰第2等を新設、観光利用の取込みと交通空白地対策を担う。

また、山倉方面への乗り入れを行い、山田循環バスと機能分担することで交通網の効率化を図る。

小見川駅から府馬線へ乗り継ぐことで、旭中央病院への通院が可能となる。また、栗源地区から南原地の商業施設への買い物利用、おみがわ医療センターへの通院利用が可能となる。

Ⅱ 栗源循環ワゴン（新設・実証運行）

- (1) 運行の態様 定時定路運行
沢ルート（2便/日、4往復）
高萩ルート（2便/日、4往復）
- (2) 運行日 月・木曜日 沢ルート
火・金曜日 高萩ルート
※水・土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (3) 使用車両 日産キャラバン
専用車は、市公用車を貸与する
予備車は、運行事業者が用意する
専用車と同等の輸送量が確保できれば専属車は不要
- (4) 運賃 大人 300 円、中高生 100 円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100 円
障害者手帳所持者（中高生）無料
- (5) ルート 別添【資料 2-2】参照
- (6) 時刻表 別添【資料 2-3】参照
- (7) 適用法令 道路運送法 21 条
- (8) 運行開始までのスケジュール
令和 3 年 5 月下旬 事業者募集開始（プロポーザル予定）
令和 3 年 6 月中旬 事業者決定
令和 3 年 7 月上旬～ 運行準備（法令手続き、住民説明、広報周知等）
令和 3 年 10 月 1 日 実証運行開始予定
- (9) 実証運行の期間（予定）
始期：令和 3 年 10 月 1 日 ～ 終期：令和 4 年 3 月 31 日
- (10) 実証運行後の方針
実証運行から得た乗降データを基に栗源循環ワゴンのルートや運賃、便数等の見直し等の検討を行う。
令和 4 年 4 月以降、同じく実証運行路線である佐原循環ワゴン【資料 2-4】と統合、1 路線化した上での本格運行を目指す。

Ⅲ 山田循環バス

- (1) 運行者 千葉交通株式会社 (委託)
- (2) 運行の態様 定時定路路線 5便/日
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始(12/29~1/3) 運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ (33人乗り)
- (5) 運賃 大人 300円、中高生 100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者(大人) 100円
障害者手帳所持者(中高生) 無料
回数券(12枚綴り 1,000円)
乗車券(1日フリー乗車券大人 600円、中高生 200円)
- (6) ルート 別添【資料3-2】参照
- (7) 時刻表 別添【資料3-3】参照

(8) 改正点

府馬線との機能分担により、府馬線運行区間の一部(日下部~田部倉庫前)及び山倉方面から撤退、山倉方面は栗源~山田~小見川線が担う。

第1便の始発点を山田支所から風土村へ、第5便の終着点を山田支所から風土村へ変更することで、効率化を図る。

第2~5便は、新たに野田地区への乗入れを開始し、新田橋~丸昇前を設置、また、交通空白地帯に大久保を新設、路線の機能強化を図る。

小見川駅、または、四ツ塚から府馬線へ乗り継ぐことで、旭中央病院への通院が可能となる。

使用車両の大型化により、進入できなくなったおおくすの郷を廃止し、代替として新たに南四ツ塚青年館を設置する。

利用状況から、田中商店前、鳩山を廃止とする。

第1便 始発点の変更(山田支所→風土村)

第2~4便 統一ルートの導入
野田地区への乗入れ

第5便 野田地区への乗入れ
終着点の変更(山田支所→風土村)

IV 小見川循環バス（上の台経由）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 5便/日
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ（33人乗り）
- (5) 運賃 大人 300円、中高生 100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12枚綴り 1,000円）
乗車券（1日フリー乗車券大人 600円、中高生 200円）
- (6) ルート 別添【資料4-2】参照
- (7) 時刻表 別添【資料4-3】参照

(8) 改正点

神里線との機能分担によるルート見直しと、始発点を小見川駅から工業団地へ変更することで効率化を図る。

旭中央病院線の廃止により、同線が担っていた高萩地区への乗り入れを行い、新たに玉造商店、高萩、高萩新田、上谷、駒ヶ谷を設置、路線の機能強化を図る。

地区要望から、木内を新設する。

小見川駅から府馬線へ乗り継ぐことで、旭中央病院への通院が可能となる。延伸に併せ、現行の6便/日から1便減の5便/日とし、効率化を図る。

第1便 始発点の変更（小見川駅→工業団地）
高萩地区への乗り入れ

第2～5便 高萩地区への乗り入れ

IV 小見川循環バス（城山公園経由）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 4便/日
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ（33人乗り）
- (5) 運賃 大人 300円、中高生 100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12枚綴り 1,000円）
乗車券（1日フリー乗車券大人 600円、中高生 200円）
- (6) ルート 別添【資料 4-2】参照
- (7) 時刻表 別添【資料 4-3】参照

(8) 改正点等

令和2年12月1日に先行改正を実施した。県立小見川高等学校前へ延伸し、小見川高校を新設、主たる利用者である同校生徒の利便性向上を図った。

令和3年度新入生の入学前説明会時に、利用促進リーフレットの配付をしたほか、引き続き同校と連携し利用促進を図る。

第1～4便 小見川高校前へ延伸

V 佐原循環バス（大戸・瑞穂ルート）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 5便/日
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ（33人乗り）
- (5) 運賃 大人300円、中高生100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12枚綴り1,000円）
乗車券（1日フリー乗車券大人600円、中高生200円）
- (5) ルート 別添【資料5-2】参照
- (6) 時刻表 別添【資料5-3】参照

(7) 改正点

使用車両の大型化によりルートを見直し、西坂神社～寺内間の幅員が狭い区間を廃止する。これに伴い、西坂神社を廃止、寺内を移設とする。なお、新ルートは、みずほ台団地内を周回し西部田青年館に向かう。

現行の粉名口車庫を起点としたルートの見直しにより、始発点を市役所前から大戸一本松へ変更、終着点を市役所前から佐原駅へ変更する。また、香取神宮以降のルートを整理し、佐原駅（北口）での降車に変更することで、効率化を図る。

大戸駅での乗継を改善し、また、玉造団地・岩ヶ崎団地への乗り入れにより、路線の機能強化を図る。

- 第1便 始発点の変更（市役所前→大戸一本松）
大戸駅の乗継改善（上り7:16対応）
玉造団地、岩ヶ崎団地への乗り入れ
- 第2～4便 玉造団地、岩ヶ崎団地への乗り入れ
香取神宮以降のルート短縮
- 第5便 大戸駅の乗継改善（下り17:40対応）
終着点の変更（市役所前→佐原駅）

VI 佐原循環バス（北佐原・新島ルート）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 5便/日
- (3) 運行日 月曜日から金曜日
※土・日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ（33人乗り）
- (5) 運賃 大人 300円、中高生 100円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12枚綴り 1,000円）
乗車券（1日フリー乗車券大人 600円、中高生 200円）
- (6) ルート 別添【資料 6-2】参照
- (7) 時刻表 別添【資料 6-3】参照

(8) 改正点

現行の粉名口車庫を起点としたルートの見直しにより、始発点を市役所前から横利根閘門公園へ変更し、終着点を市役所前から佐原駅へ変更することで効率化を図る。

第1便を佐原中学校の登校に利用できるダイヤに変更する。佐原駅の乗継を改善するほか、新たにショッピングセンターパルナへの乗り入れを開始し、路線の機能強化を図る。

第1便 始発点の変更（市役所前→横利根閘門公園）
佐原駅の乗継改善（上り 7:38 対応）
佐原中学校の登校時間帯にダイヤ変更

第2～4便 ショッピングセンターパルナへの乗り入れ

第5便 ショッピングセンターパルナへの乗り入れ
終着点の変更（市役所前→佐原駅）

Ⅶ 佐原循環バス（周遊ルート）

- (1) 運行者 千葉交通株式会社（委託）
- (2) 運行の態様 定時定路路線 13 便/日
- (3) 運行日 土・日曜日、祝日
※平日、年末年始（12/29～1/3）運休
- (4) 使用車両 日野ポンチョ（33 人乗り）
- (5) 運賃 大人 300 円、中高生 100 円、小学生以下無料
障害者手帳所持者（大人）100 円
障害者手帳所持者（中高生）無料
回数券（12 枚綴り 1,000 円）
乗車券（1 日フリー乗車券大人 600 円、中高生 200 円）
- (6) ルート 変更なし（ルート図省略）
- (7) 時刻表 変更なし（時刻表省略）

報告 1 令和 2 年度公共交通事業者支援事業について

新型コロナウイルス感染症による利用者減少により、極めて厳しい経営環境に立たされている公共交通事業者に対し、経営を支援すべく、次の支援事業を実施した。

(1) 香取市交通事業者事業継続支援金

市の公共交通網の確保維持に不可欠であるバス事業者及びタクシー事業者に対し支援金を交付した。【事業費 4,170 千円】

●路線バス事業者

対象者 千葉交通株式会社、ジェイアールバス関東株式会社
支援額 600 千円

●タクシー事業者

対象者 北総自動車株式会社、京成タクシー成田株式会社
有限会社府馬タクシー、株式会社相互自動車
有限会社神崎自動車
支援額 1,370 千円

●高速バス事業者

対象者 千葉交通株式会社、京成バス株式会社、関鉄グリーンバス株式会社
支援額 2,200 千円